

あとがき

過去の災害から学ぶ名古屋

～あなたの街が教えてくれること～

名古屋市では、平成 27 年度に消防局から独立した形で、防災危機管理局が設けられた。その初仕事のひとつに名古屋市の歴史災害記録を渉猟しての地図作りがあった。その成果として「歴史災害から見る名古屋」と題して江戸時代から現在に至るまでの 4 枚の時代別災害記録ポスターが出来上がった。それは市内の区役所、小中学校、図書館などに配布され、多くの人に名古屋の災害史を知っていただくことができた。

このポスターを作り上げた後に、作成者側に新たな課題が見つかった。名古屋市全体で災害を振り返ると、明治の濃尾地震にしろ、戦後の伊勢湾台風にしろ、被害地域は市の南部、西部に偏っていたので、北部、東部の丘陵地域の方々は歴史災害に対して関心が薄かったのではなかろうか。これでいいのか。明治時代の地形図をみると丘陵地に多くのため池があり中小河川が走っている。その後の都市開発でほとんどが埋められてしまったがゆえに、地盤は軟弱である。そこで「市民誰しにも身近に災害を感じてほしい」との思いから、「歴史災害から見る名古屋」の第 2 弾として平成 28 年度は名古屋市の 16 区すべてにおいて、自らの区の歴史災害啓発資料を作っていたかどうかという事になった。

各区からの担当者が集まって第 1 回の会議が 5 月に行われたが、予想通り丘陵地諸区の担当者から「うちの区は歴史災害と無縁で、…」という意見があった。しかし、西部・南部の担当者から被災状況のすさまじさが 7 月の第 2 回会議で報告されると、表情が変わり、「うちの区でも調べなくては」となり、その報告が 10 月の第 3 回会議で出始め、年明けの 1 月の第 4 回会議では「あなたの区でそんな災害があったとは」というまでの成果があげられた。

各区の担当者は、単に過去の活字資料の収集だけでなく、写真を集め、地名にこだわり、さらには現地へ赴き、聞き取りを行なった。そうした努力の結晶が本報告書である。巻末に名古屋市域に被害をもたらした地震災害年表と水害年表が付されており、随所に歴史災害から学んだ防災の心得が記されている。

この報告書を目にされた読者の皆様が、本報告書を防災対策用に活用してくださるとともに、わが家の近くにもこんな災害があった、という新情報を作成者へお寄せいただければ嬉しい。

名古屋大学名誉教授
溝口 常俊